

オアシス・ミニストリー

～ オアシス・ミニストリーの目的 ～

ファシリテーター 八巻正治

ホームページ <https://caritas7.com>
<https://www.facebook.com/yamaki30>
メール : yamaki@shokei.ac.jp

◇今回、新たに困難さを抱えている子どもたちや、その保護者さんたちへの寄り添い支援活動を目的とした「オアシス・ミニストリー」の働きを展開させていただくことになりました八巻正治(やまき・まさはる)と申します。今もってその理由は定かではないのですが、私自身、高校時代は激しいまでの不登校状態に陥り、そのことでひどく苦しみました。自分なりにそうした状態から抜け出そうとして、2年次の途中で高校を転校したり、高校の近くに下宿をしたりもしましたがダメでした。自分としては学校を拒否している意識はなかったのですが、当時は登校拒否と呼ばれ、根性がないとか、適応性がないなどと非難されたりもしました。何よりも自分自身への苛立ちから家具類を破壊し続けたりもしました。しかし、こころ優しき両親の「忍耐の涙」によって何とか立ち直ることができました。そのとき私は[寄り添い]の大切さを知りました。

◇そんな自分でしたが、何とか大学で学ぶことができ、卒業後に肢体不自由児養護学校での働きを経てから大学院で学び直し、これまで各地の大学の福祉系学科や子ども系学科の専任教員としての働きを重ねることができました。そして大学の専任教員としての働きを終えた後は、ある大学の非常勤講師として「子ども家庭福祉論」を担当させていただきましたが、この働きも三月で終わりました。

◇私は20代の時期を身体機能に制約を有する子どもたちの臨床現場で過ごしました。そこで出会った子どもたちや保護者さんたちから多くのことを学びました。現場で働き始めた頃には、困難性を抱えて苦しむ母親から、「もう無理です。あす、この子を連れて死にます！」などと言われたりもして、ひどく驚き、うろたえてしまったものでした。そうしたことを通して、「皆で支え合いながら、一人ひとりが地域に根ざして歩むことができるような温かな社会づくり」が私自身の生きる基軸となりました。しかし非力さゆえに、私自身は何ほどのこともできず、まだまだ道半(なか)ばであることを強く感じます。

◇さて、今般、私が困難さを抱えている子どもたちや、その保護者さんへの支援活動の展開を願ったのは、幼児保育機関や学校、さらには保育者や教員側に、お子さんや保護者さんが抱える困難さや辛さをスムーズに伝えることができずに過度の緊張関係や対立関係に陥ったり、感情的に心を閉ざしてしまい、信頼関係の構築を諦めてしまったりするような不幸な事態を回避、もしくは軽減できたら、との思いからです。すなわち**オンブズパーソン**たるソーシャルワーカーとして、感情論に押し流されずに冷静な視点から、困難さを抱えている子どもや保護者さんたちの**権利擁護(アドボカシー)**を図らせていただきたいと願ったからです。

◇もうひとつは、かねてより就学前段階にある子どもたちや、その保護者さんたちに対するソーシャルワーク的な支援が手薄であることを感じてきたからです。大半の幼児保育機関には専門的な支援スキルを有したソーシャルワーカーが配備されていないことが多く、そのため、そこで働く保育支援スタッフさんたちの負担感が強いことを感じてきたからです。そのため、(とりわけ民間の)幼児保育機関の支援スタッフさんたちの支えになりたいと願ったからです。

◇私は精神保健福祉士&社会福祉士として、小・中学校のソーシャルワーカー(非常勤職)としての活動経験を有しています。そして訪問支援(これをアウトリーチと言います)等の[寄り添い支援]のまなざしをもって託された職務に励んできました。私自身、比較的自由度が高かった大学教員としての働きが長かったため、「チーム学校」を重視する組織体のメンバーとして、小・中学校で働くことへの不安がありました。この働きを通して、ようやくプロのソーシャルワーカーらしくなってきたことを感じています。と言うより、もともと臨床現場でのソーシャルワーカーがフィットしていたのだと思っています。

◇守秘義務が課されているため、具体的に述べることはできませんが、臨床現場で生起する出来事を通して、子ども家庭福祉を取り巻く環境が、いっそう厳しさを増し加えていることを強く感じています。そのため、寄り添い支援の働きを通して、困難さを抱えて苦しむ子どもたちや、保護者さんたちの最善の利益を図るべく微力を尽くしたいと心しています。

◇正直なところ、私個人としては、すべての子どもたちが、半ば義務的に幼児保育機関や学校に通うことが、ほんとうに必要なのかどうかについて明確な考えは有していません。ただ自分自身の経験から、「基本的な生活習慣の確立」や「学びの手ほどき」を受けることの大切さについては痛感しています。そのための組織体や手立てとして、どういった場(幼児保育機関・学校・適応教室・フリースクール・居場所等)や、関わり方式(組織内での集団指導か、別室での個別指導か、あるいは訪問しての学習支援)がフィットしているのかについて正直、分からないのです。永い人生設計の中の初期段階にある幼児・児童期の子どもたちが、その子なりに安心して位置づくことのできる場の保障や、一人ひとりの子どもたちの最善の利益を図るために丁寧に寄り添う関わりが大切だと考えているに過ぎません。

◇非力ゆえ、何ほどのこともできませんが、ささやかな社会貢献活動ができればと願い、この働きを始めることにしました。ただ、SNSによる間接的な支援活動は居住地を問いませんが、直接、お目にかかったり、訪問したりしての支援活動は地域が限定されます。具体的には「**栃木県内(県南地域を除く)**」と「**福島県内(県南地域)**」に限定されます。なお、これらの活動は私自身の社会貢献活動のため、無償によるボランティア活動です。その理由は、私自身はすでに公的年金等の受給者ですので、それ以上の収入は不要と考えているからです。交通費やスタッフ研修等に関する必要経費はオアシス・ミニストリーの活動を支えるための献金として受け取りますが、私個人の収入には加えません。以上、支援のご要請がある場合にはメールでお願いいたします。その後、お電話等でやりとりをさせていただきます。 [\[yamaki@shokei.ac.jp\]](mailto:yamaki@shokei.ac.jp)